



ネット上のいじめ

スマートフォン・携帯電話・パソコン等を利用して、特定の子どもの悪口や誹謗・中傷等をインターネット上の掲示板等へ書き込んだり、悪質な画像を投稿したりするなどの方法によりいじめを行うもの。

特徴

- 言葉による行き違いからトラブルになり、仲間外れにされる。
- 絶え間なく、悪口が書き込まれるため、被害が短期間で深刻になる。
- 個人情報を無断で流出されたり、加工されたりして、個人攻撃に発展することがある。
- 見えにくいいじめが発生し、大人がいじめの実態を把握するまでに時間がかかる。



子どもにスマートフォンや携帯電話を与えるときの注意点

- ・ 家族で話し合っ、家庭で使い方のルールを決めましょう。
- ・ フィルタリングや制限機能を設定しましょう。



学校では…



POINT

子どもの人間関係や、一人ひとりの気持ちがわかるように
子どもの思いを受け止め、一人ひとりをしっかり見ていきます。

懇談やアンケートなどを実施して、
学級の様子や一人ひとりの子どもの
気持ちを確認します。

✓ check



《学校生活アンケート》

- 学校では楽しく過ごしていますか？
- 困ったことがあったとき、相談できる友だちがいますか？

・
・
・

- 学級のことや友だちのことで相談したいことがあれば、
書いてください。

気になることを早く見つけて、子どもの気持ちを受け止め、
相談しながら一緒に解決していきます。



- ・ いじめが起きないように、子どもの普段の生活をしっかり見守ります。
- ・ 一人ひとりの違いを認め合える仲間づくりを大切にします。
- ・ いじめられている子が孤立しないような働きかけをします。

子どもを見守る大人としては



POINT

自分の子どもは集団の中でどのような様子なのか、子どもをよく知ることが大切です。

例えば



いじめられたと
感じて我慢している
ように見える



いじめられていても、
そう感じていない
ように見える



友だちの
嫌がることを
してしまう



うちの子は
どうかしら…。

POINT

子どもは十人十色で、同じ出来事でも感じ方は様々です。
保護者は、自分の子どもの話をよく聞き、様子をよく見て、
子どものことを知っておきましょう。

子どもの成長のために…

子どもが解決していく問題にいつも
保護者が出ようとしてはいけません。



子どもを信頼し相談しながら、子どもののぞむ
こと、保護者のできることを考えていきましょう。

子どもの様子に合わせた対応

子どもの力を信じて、可能性を伸ばせるようにかかわることは大切です。



いじめられたと感じて我慢しているように見えるときには

- 「つらいことや苦しいこと、どんなことでもあなたの気持ちを話してくれたらうれしいな。」というような温かい言葉をかけましょう。



いじめられていても、そう感じていないように見えるときには

- 「それでいいの？」と時々声をかけて、聞きましょう。
- 立ち止まって**気づく機会**をつくりましょう。



友だちの嫌がることをしてしまうときには

- 周りに協力を求め、集団の中で**みんなと楽しく遊ぶこと**をたくさん経験できるようにしましょう。
- 「やめて」と言われるより、「**ありがとう**」と言われるほうが心地よいという**体験**をさせてあげましょう。
- **嫌がることをする背景（理由・目的）**を考えましょう。
- 自分が受け入れられている**実感をもてるようなかわり**をしていきましょう。



子どものよい行動に注目していますか？



愛されていると実感している子は、いじめをしません。

いじめを起こさない子どもたちの 関係づくりをめざしましょう

いじめの防止に大きな力を発揮するのは、周りの子どもたちです。

周りの子どもたちが「いじめに加わらない」「いじめを許さない」仲間たちであれば、いじめが起きることは少ないのです。

しかし、いじめはいけないとわかっているけれど、いじめられている子の側に立てず、苦しんでいる子どもたちもいます。



いじめを見逃して平気である
子どもはほとんどいません。



勇気を持って
止めなさい。

いじめを止めないのは、
いじめているのと、
同じことです。



大人が言うほど
簡単じゃないんだ…。

子ども一人でいじめに立ち向かうのは難しい場合が多いです。
いじめの解決には、子どもと大人が一緒に取り組むことが大切です。

